

令和2年度 八幡小学校 八Pアンケート結果

保護者アンケート（全18項目）回答者88名

①子どもは、友達のことを大切にできている。	88名
②学校は緊急時の避難の指導や保護者への連絡ができている。	84名
③子どもは、いじめなどはなく楽しい学校生活を送ることができている。	81名
④子どもは、正しく判断し行動できるようになっている。	78名
⑤学校は、登下校や自転車の乗り方などの交通安全の指導ができている。	76名
⑥子どもは、よいと思ったことを進んで行おうとしようになっている。	76名
⑦学校は、保護者の悩みや相談に適切に応じている。	74名
⑧学校では、一人一人の人権が大切にされている。	74名
⑨学校は、子どものために、改善・充実した教育活動をしている。	73名
⑩学校は、学習内容をわかりやすく教えている。	72名
⑪子どもは、学年に応じた漢字・計算力がついてきている。	71名
⑫子どもは、自分から元気なあいさつができている。	70名
⑬子どもは、自分の考えをもって話をしたり、書いたりすることができている。	70名
⑭子どもは、積極的に徒歩通学や外遊びなど、体力向上に取り組んでいる。	69名
⑮子どもは、聞いたり読んだりしたことを理解する力が伸びてきている。	69名
⑯子どもは、自分から進んで宿題ができている。	63名
⑰子どもは、望ましい生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）が身につけている。	59名
⑱子どもは、1週間に一冊以上本を読み、家庭で読書をする習慣が身につけている。	28名

【考察】

- ・①について、回答者全員が肯定的に評価している。今後もこのような評価が得られるよう、家庭と連携して子どもの育成に努力したい。
- ・②⑤⑦⑧⑨⑩は、学校に対する保護者の皆様の直接的な評価である。生徒指導面、学習面、運動面、保護者との連携について、どの項目も学校がもう少し努力しなければいけないという評価をいただいている。私たち教職員が一丸となって、各項目の評価が上がるよう、取組の充実を図りたい。
- ・保護者アンケート⑫は、あいさつに関する項目である。あいさつは、最も大切な基本的な生活習慣の一つであり、人間関係づくりの第一歩であるため、児童アンケート⑭とあわせて、みんなの力で100%にしたい。
- ・保護者から見て、特に⑯⑰⑱の評価が低いが、この3項目には共通している課題がある。子どもがスマホやゲーム中心の生活をしていないか、家庭で話し合い、よい生活習慣を身につけてほしいと思う。
- ・アンケート結果から考えて保護者の皆様をお願いしたいことは、子どもがよい生活習慣を身につけるための生活環境づくり、子どもとの日頃からの会話を大切にした親子関係づくり、物事に粘り強く取り組む子どもの育成、この三点である。

児童アンケート（全25項目）回答者91名

①学校の行き帰りや自転車に乗る時は、交通安全のルールを守ることができた。	89名
②運動会などの行事を楽しむことができた。	88名
③友だちに「ありがとう」「ごめんなさい」を言うことができた。	86名
③地震や火事、不審者がいた時などに、どうやって逃げたらよいか、知っている。	86名
⑤毎日、楽しく学校へ行くことができた。	85名
⑥使った物をもとの場所にもどすことができた。	85名
⑦学校のきまりをきちんと守ることができた。	85名
⑧はきものをきちんとそろえることができた。	84名
⑨友だちのことを思いやり、親切にすることができた。	83名
⑩自分から進んで、係の仕事をすることができた。	82名
⑪授業中、先生や友だちの話をよく聞くことができた。	81名
⑫学校の授業は、わかりやすく、楽しく勉強できた。	80名
⑬宿題を毎日、きちんとしあげて出すことができた。	80名
⑭自分から元気よくあいさつができた。	78名
⑮友だちがいやがることを言ったりしたりせずにごすことができた。	78名
⑯チャイムの合図を守って着席することができた。	77名
⑰いつも歩いて登校したり、休み時間は、外で元気に遊ぶことができた。	77名
⑱まじめにそうじをすることができた。	77名
⑲自分の考えを持って話したり書いたりすることができた。	76名
⑳漢字や計算のテストでは、80点以上をとることができた。	73名
㉑自分にはよいところがある。	69名
㉒校内を走らず、歩くことができた。	66名
㉓「早ね・早おき・朝ごはん」など、きそく正しい生活ができた。	63名
㉔困ったことや悩みがある時、いじめがある時など、先生に相談できた。	61名
㉕1週間に一冊以上、本を読むことができた。	59名

【考察】

- ・⑤は特に大切なことであり、学校は100%をめざして今後も努力したい。
- ・㉑について、今後、「自尊感情」（自分にはよいところがあると考え、自分を肯定的にとらえる気持ち）の育成、なかでも「自己有用感」（人の役に立ったり、人から認められたりすることで生まれる肯定的な気持ち）の育成に力を注ぐ必要がある。
- ・⑪⑫⑬⑲⑳のような勉強に関する項目において、自分のことを肯定的に評価できない児童が十数名いる。自分の思い通りに勉強ができるには、学習量、学習方法、学習内容について見直すことが大切であるが、その前提として自分の生活習慣の改善が必要である（㉓）ことを理解させたい。
- ・読書について、㉕の結果から読書習慣が身につけていないという課題がみられる。保護者アンケートでも同じ結果（㉓）となっている。読書活動の取組について、来年度に向けて、見直したい。
- ・㉔について、私たち教職員は、気軽に相談してもらえよう、ふだんから信頼関係をつくる努力を続けなければいけないと思う。